

1 本年度の学校目標

学校教育目標 「ふるさとを愛し 自らを高め 未来への道を切り拓く 八鹿青溪っ子の育成」	
〇めざす学校像	「学ぶことが楽しい学校」「教育環境が整備され、活気ある学校」「安全・安心で保護者や地域と連携し、信頼される学校」
〇めざす児童像	「よく学び、よく遊ぶ子」「ふるさとを愛する子」「コミュニケーション能力の高い子」「規則正しい生活習慣の身についた子」「思いやりのある子」「チャレンジする子」
〇めざす教師像	「一人一人の児童の良さや可能性を伸ばす教師」「児童・保護者・地域に思いを寄り添える教師」「使命感や情熱をもって、自らの実践的指導力を向上させ、互いに切磋琢磨する教師」

2 学校自己評価結果 (A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取組内容	達成状況	学校の取組状況・改善の方策
学校全体	学校の教育方針や情報などを保護者や地域にわかりやすく伝えているか	A	《取組状況》 ・月2回の学校だよりを全戸配付したり、一新したホームページで児童の活動を頻繁に紹介したりすることで、教育活動の様子や学校の願いを地域に発信している。また、学級通信、保健だより、食育だよりなどで、子どもの様子をこまめに伝えている。 ・子どもの声で、草庵先生の教えや今月の生活目標を告知放送し、保護者と地域にも広く啓発している。 ・多様な活動ができるよう教室環境や学習環境を整えている。休み時間に体育館で遊ぶ姿をよく見かける。 ・「〇〇週間・〇〇チャレンジカード」等挑戦する機会を積極的につくったことでチャレンジし達成する喜びを経験する児童が増えた。 ・「宿南っ子がんばりタイム」や休み時間や始業前・放課後の個別指導を丁寧に行っており、基礎基本の定着・学習習慣づくりに取り組むことができた。
	めざす学校：教育環境整備、活気、安全・安心、保護者・地域との連携	A	
	めざす児童：自立、チャレンジ、共生、健康	B	
	めざす教師：信頼感＝人間性・専門性・実践的指導力、使命感・情熱	A	《改善の方策》 ・毎学期の生活アンケートや毎月のいじめ防止アンケート、日記指導や普段の児童観察、学童クラブとの連携等、積極的に児童の実態把握に努め、いじめの早期発見・早期対応を行っている。 ・ペーパーレス会議が定着し、会議の終了が勤務時間を超えることはあまり無い。データや備品の管理のルール化が定着し、子どもと向き合う時間がしっかりと確保されている。 ・生活目標に対して、代表委員会で振り返り、具体的な改善策を児童が主体的に考え取り組んでいる。 ・教師全員が全児童の担任であるという意識で児童にかかわることで、児童を多面的に理解したり児童の様子を共有したりすることができた。
	児童の人権を尊重するとともに、いじめの防止・体罰防止に努めたか	※A	・感染症予防のため、定期的に学級指導を行ったり委員会が予防の啓発を呼びかけたりし、継続して注意喚起することができた。
新型コロナウイルス・インフルエンザ等への感染症対策は適切であったか。	A	《改善の方策》 ・定時退勤日を、水曜日の他に、月初めの月曜日に設定している。今後も、業務の均等化とスリム化を図りたい。 ・今後も積極的にいじめにつながる事案をつかみ、学校全体で共有し、組織でいじめに対処していく。	
勤務の適性化に全職員で取り組み、子どもと向き合う時間を確保しているか	※A		
授業の様子	児童は、自ら学び自ら考える力を持っているか	B	《取組状況》 ・児童の提出物や宿題から、個々の課題を掴み、個別指導を丁寧に行った。また、地域ボランティアによる「がんばりタイム」を活用し、基礎・基本の確実な定着を図ることができた。 ・少人数の良さを生かして、様々な体験活動を取り入れたり試行錯誤する時間を確保したりすることで、基礎基本の定着を図ることができた。 ・機会を捉えて、自分の言葉で発表したりスピーチをしたりすることで大切にしたい取組を行った。 ・全校で、算数科を中心とした学習を取り入れた。その中で、児童が主体的に授業に取り組む方法を探った。 ・先学校視察や講師招聘をし、指導力の向上を図った。 ・アカデミアJr、英語の歌等の活動を継続して取り入れることで、自然に英語に慣れ親しみ、英語力が確実に身につけている。
	教師は、指導方法・指導内容の工夫・改善に努めているか	A	《改善の方策》 ・子ども同士の学び合いが深まるよう、授業形態の工夫や話し合い活動の活性化を図る。 ・デジタル教科書やデジタル教材の有効な活用方法を探求し、指導内容・指導方法の改善に努める。
	教師は、基礎基本の定着と個に応じた学習指導を行っているか	A	
社会性・人間性の育成	児童は、集団生活に必要なきまりや約束を守っているか	B	《取組状況》 ・草庵先生の教えを月目標にし、生活を振り返るとともに、地区の告知放送でも呼びかけ保護者や地域の方にも取組を伝えるようにした。 ・自治協会の活動やPTA活動もいろいろな工夫をされながら取り組まれ、児童も積極的に参加する様子が見られた。 ・生活アンケートの検証や子どもを語る会の実施、家庭との連携などにより児童理解に努めた。 ・「そうあんくんの日の取組では、「そうあんくんカード」を活用し、テレビやゲームの時間を手伝いや読書・自主学習に使うよう意識づけを図った。
	児童は、「そうあんくんの日」に計画的・意欲的に取り組むことができたか	A	・「そうあんくんの日」の取組を活性化させるため、児童の取組の様子や保護者の声を学校だよりで紹介した。 《改善の方策》 ・子どもの実態把握を継続的・計画的に実施し、児童理解を深め、一人一人の子どもに寄り添った指導に努めていく。 ・できるだけ児童の思いや考えを聞き出し、気持ちに寄り添った生活指導を今後も心がけていく必要がある。
	児童は、地域行事へ積極的に参加し、地域の人々と交流を深めていたか	B	
教育活動	教師は、児童の規範となる言動を行い、児童に寄り添った指導をしているか	A	
	道徳・人権・福祉・特別支援教育 ・個に応じた教育を推進できたか ・体験活動を通じた道徳教育を推進したか ・人権啓蒙の育成、規範意識の高揚を図ることができたか ・福祉体験活動を計画的に共生に行うことができたか ・教育活動全般を通して共生の心を育てることができたか	A	《取組状況》 ・タブレットの活用が進み、児童は操作に慣れてきている。 ・図書室を利用しやすい配置にしている。また、図書の管理もデータ化し貸出・返却・購入・廃棄等、効率よく処理できており、図書室利用も増えている。 ・「たじま荘」訪問をしたり、地域の高齢者に年賀状を送ったりするなど、工夫して福祉教育に取り組むことができた。 ・スクールカウンセラーによる研修、通級指導等、個別の指導や支援に関する専門的な研修を行った。 ・児童会による「きらきら言葉を集めよう」で、優しくしてもらったことを紙に書いて掲示するようにしたところ、優しさに気づく児童が増えて人間関係づくりが円滑になった。 ・新聞を活用した教育を進める中で、新聞づくりの学習をしたり、新聞を使って言葉探しの学習をしたりした。朝のスピーチに新聞を使うことも増えた。毎日届く新聞を手取る児童も増え、社会情勢に関心をもつ児童が増えた。 ・「一輪車週間」や「鉄棒週間」「ジョギングタイム」など、日頃から運動に関心をもつよう働きかけを行ったため、目標をもって運動に取り組む児童が増えた。 ・陸上・水泳・一輪車において講師招聘を行い、より専門的な教育活動を試みた。 ・健康に関する指導（歯・姿勢・睡眠・朝食・性教育など）を計画的に行うとともに、通信を通して保護者に積極的に発信し、保護者の理解を得て保健指導ができた。 ・通常の避難訓練に加え、栄養教諭に協力を得て、防災食の学習をおこなった。
	健康教育（性教育・食育） ・系統的に児童の心身の健康に配慮ある指導ができたか ・教育全般を通して指導を行うことができたか	A	
	防災・環境教育 ・地域の特性に応じ、連携のある取組を推進したか ・計画的・継続的に児童の危機回避能力の向上を図る取組ができたか ・身近な環境に関心をもち課題意識を育てることができたか	A	
	情報・図書館教育 ・児童の情報活用能力の育成とSNSの安全な利用について指導ができたか ・教育活動全体でICTの効果的な活用を進めることができたか ・読書の習慣化、家庭読書の定着を進めることができたか	B	《改善の方策》 ・里山体験やふるさと学習、草庵先生の学習等、系統立てて指導できるように更に取組を進めていく。 ・今後も地域の教育資源の活用を促進し、地域と子どもも連携を深める。 (地域人材バンク) ・家庭読書につながる取組を考える。 ・外部講師や地域人材を、より積極的に活用する。
	ふるさと・キャリア教育 ・計画的・系統的に地域素材・人材の活用ができたか ・キャリア教育を推進することができたか	A	
	小中一貫教育 ・小中一貫教育を見据えた上で、小中連携を推進することができたか	A	
	オープンスクールやPTA活動などにおいて、保護者や地域の方と連携を深めているか	A	《取組状況》 ・学校行事への参加や、地域の方へ参加を積極的に呼びかけた。マラソン大会や秋祭りは浴道で多くの方に声援をいただいた。 ・登下校の見守りや声かけ、長期休業中の学習のボランティアなど、コロナ禍でも地域の方には積極的に関わっていただきありがたい。 ・PTA活動は、本当に必要なことを吟味しながら、前向きな姿勢で活動を推進することができた。 《改善の方策》 ・学校だけでなく、地域でも家庭でも児童が大きな声であいさつできるよう三者が連携した指導を継続する。 ・コミュニティ・スクールを推進するため、地域と学校が一体となって子ども達の指導に関与する仕組みづくりをしている。
	学校は、地域の人材、施設、歴史、自然などを教育活動に活用しているか	A	

3 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 複式学級・少人数での単式学級ともに、授業の進め方に難しさがあると思う。よりよい授業のあり方のために研修を積んでもらいたい。 専門的な方を講師に招いた授業は子どもにとっても教師にとっても有意義なものになる。今後も続けてほしい。 告知放送や学校行事について地域への連絡をしてもらっているのがありがたい。ただ、放送時間に開けていないことがあるので、何かよい解決方法がないかと考えている。 地域を巻き込んでの奉仕作業もどんどんしてもらいたい。運動会も、地域と合同のものにしてはどうか。子どもの負担も減らし、地域としても盛り上がる。
--

4 評価項目ごとの学校関係者評価

自己評価の適切さ
<p>【学校全体について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全戸配布してもらっている学校だよりが丁寧で分かりやすく、学校の様子がよく分かる。地域住民としても楽しみにしている。同時に、次の月の予定を配布してもらっているのもありがたい。 HPを意識して見るようになった。写真が大きく貼られており、子どもの様子がよく伝わる。 いじめやトラブルが起きたときに、職員が丁寧に対応していることを聞き、安心した。いじめは、大変気になる問題なので、確実な指導をお願いしたい。 挨拶に関して、大変よくできるようになっている。挨拶を大切にできる子どもを育てるようになり、地域住民として、自分からも挨拶をするように心がける。 <p>○達成状況の自己評価は適切である。</p>
<p>【授業の様子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年時は全く発表できなかった子どもが高学年になった今、積極的に発言している姿を見て成長を感じている。 A・L Tとの英語の学習は大変良いと思う。子どもの発言を聞いて大変驚いた。 子どもたちが授業の内容を理解しているようで、嬉しい。少人数ならではのよさだと感じている。 児童の姿勢がすぐにくずれることがある。先生に言われるからではなく、自分の意志で姿勢をよくしてほしい。 <p>○達成状況の自己評価は適切である。</p>
<p>【社会性・人間性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きらきら言葉を集めよう」の取組は大変よいと思う。これは、子どもの自己肯定感にもなるはずである。これからも、続けてほしい。 地域行事が少なくなっている。また、保護者の意識によって、参加する子どもが固定されている気がする。多くの子どもに参加してもらいたい。 「そうあんくんの日は意義のあるものになっていると思う。子どもがノーゲームを意識できている。 <p>○達成状況の自己評価は適切である。</p>
<p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鉄棒週間のとき、子どもが休みの日に学校に行き、鉄棒を頑張る姿が見られた。このような習慣をさらに増やし、続けてほしい。 水泳・陸上・一輪車などの体育の授業において専門的な方を外部講師に招き指導してもらったのは良いことである。いろいろな分野に広げてほしい。 タブレットの活用は、今の情報化社会の中で必要不可欠である。引き続き、指導をお願いしたい。ただ、使用時姿勢が悪くなることや、使い過ぎで目に負担がかかることには留意が必要である。 里山体験や田植え等、様々な体験活動をしてもらっている。普段とは違った体験をし、子どもが、家庭で嬉しそうにその話をする。多くの体験が、生きる力につながると思う。 地域の方を講師として招いたふるさと講演会は大変良かった。長い時間であったが、子どもが集中して聞いている。また、大人にとっても勉強になる話であった。良い地域人材がまだいるので、来年度も講師を招き、開催してもらいたい。 <p>○達成状況の自己評価は適切である。</p>
<p>【保護者・地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の参加について告知放送をしていただいている。ただ、宿南小学校に孫や子どもがいない方は、遠慮してしまう傾向にある。地域の方でも声を掛け合うことを心掛けたい。 夏休みにした地域を巻き込んでの運動場の草抜きはよかったです。今後もどんどん声をかけてもらいたい。 <p>○達成状況の自己評価は適切である。</p>